

狭山市教育委員会
教育長 向野 康雄 様

狭山市立 入間野中 学校
校長・ 和田雅士 印

令和2年度 狭山市立 入間野中 学校 学校関係者評価表

※ 学校が行った自己評価の結果及びそれを踏まえた今後の改善方針について評価する。

※ 【評価の目安】

- A : よくできている。 (90%以上)
- B : 概ねできている。 (85%以上)
- C : あまりできていない。 (70%以上)
- D : できていない。 (70%未満)

領域	番号	評価項目	自己評価		学校関係者評価委員から 評価(文章表記)
			評価	説明	
学校運営全般	1	学校は、学校教育目標の達成に向けて、組織的に取り組んでいる。	A	・知性と品性を磨く学校づくりの旗印の下、校長の意を対して、教職員が共通理解を図って、自主的に考え、組織的に行動してきた点が、目に見えていたので評価できる。また、生徒の問題行動や保護者対応などについては、学年や分掌を中心として、とても迅速かつ適切に解決を図ってきたことも組織力の向上につながった。	○管理職と教職員が協力してより高みを目指している点は評価できる。 ○生徒のほとんどが、学校生活を楽しいと思っていることは素晴らしい。 ○生徒のことをよく考え、よく知り、対応していると思う。
	2	学校は、生徒の生活によく気を配り、問題に対して組織的に、迅速に対応している。	A	・日々の生徒への声掛けや働きかけを基本として、定期的な2者面談やチャンス相談など積極的な生徒へのかかわりができたため、生徒理解を深めるとも課題の早期発見や保護者との連携が円滑に進めるケースが多かった。	○コロナ禍の中、教職員の不断の努力により、安全配慮の下、多くの行事が実施されたことは頭の下がる思いである。教職員が一丸となって取り組んだ賜物ととらえている。 ○生徒や保護者への対応にスピード感をもって取り組む姿勢を継続してほしい。 ○これからも施設環境を整え、明るい雰囲気のある学校づくりを期待している。○生徒や保護者のアンケート結果を見ると不満と不安があるようなので今後に期待したい。
	3	教職員は、協力して教育活動に取り組んでいる。	A	・清掃については、昨年度より格段に質が向上したと評価する教職員が多かったことは成果だが、さらに高い次元を目指したい。	
	4	教師は、生徒理解に努め、一人一人の生徒の心の悩みに応えようとしている。	A		
	5	清掃が行き届き、学校がきれいである。	B		
学習	6	学校の施設・設備は安全に管理されている。	A	・教職員自己評価や生徒及び保護者の意識調査では、わかりやすい授業の実践を評価する割合は高いが、数パーセントは否定的評価となつた事実を受け止め、最終的には全ての生徒が「わかりやすい授業」と100%の評価を得ることがゴールであり、まだ授業改善の余地はあるとした。	○先生方の仕事に対する気持ちが教育活動の成果につながっていると感じた。 ○コロナ禍で授業の中にも制限があることも含め授業の内容理解に不安を感じていることが課題である。 ○タブレットを使った新しい授業を模索してほしい。 ○ICTの活用は今後ますます重要となるので、先生方のスキルアップ面にも力を入れていただきたい。
	7	教師は、生徒が興味関心のもてる授業、わかりやすい授業を実施している。	B	・生徒の授業に取り組む姿勢は全体的によく、さらに向上させたい。	○家庭学習の習慣を身に付ける指導について改善していただきたい。
	8	教師は、生徒の基礎・基本の定着に努力し、学力の向上を図っている。	A	・数年来の課題となっている家庭学習については、オンライン学習の可能性と汎用性を含め、引き続き研究していきたい。	
	9	生徒は、授業規律をよく守り、落ち着いて学習に取り組んでいる。	A		
	10	生徒は、家庭学習の習慣を身につけている。	C		
規律ある態度	11	学校は、行事等を通じて生徒のやる気を育てる指導に心掛けている。	A	・毎月の「入間野中生の品性を高める行動目標」および生活目標を明示し、生徒の学校生活の向上や社会生活における規範の意識化と実践力の向上に努めてきた。修学旅行では、3年生が公共の場では無言行動に努めるなど徐々に成果を感じ取ることができた。	○SNS上でのトラブルが深刻化していることから、保護者を含めた講座などを実施してトラブルの被害者にも加害者にもならないように指導をお願いしたい。
	12	生徒は、TPOを踏まえ、あいさつや正しい言葉づかいができています。	B	・生徒集団の中での対人スキルを発達段階に応じて身につける生徒は多かったが、友達に対するからかいやSNSを通じた誹謗中傷など、対人トラブルを起したり、それを自分自身で解決したり、対人関係を修復する力が十分に身につかない生徒も複数いるので、次年度以降の課題となった。	○SNSの問題は「どこまで学校として関与するか」の線引きをするべきである。 ○教師が範を示すことが大切であり、今後も範を示す教師集団で会ってほしい。
	13	生徒は、きまりや時間を守って生活している。	A		
	14	生徒は、自他を大切に、思いやりのある言動がとれている。	B		
	15	教師は、自ら手本となり、規範意識を高めている。	A		
健康・体力	16	教師は、生徒の学校生活が充実するよう指導している。	A	・年度当初に全学級で保健体育科が作成した自作教材(動画)を活用し、感染症対策の学習を一齐に行ったり、健康教育、感染症対策について具体的な知識と行動を指導し、生徒の意識啓発を適宜行ってきた。「入間野生の新しい生活様式心得」を浸透させるよう努めた。また、体育の授業や部活動で体力をつけ、抵抗力を高めることにも配慮した。	○動画を使った授業等、コロナ禍の健康管理、感染対策が良くできていた。 ○「ヘルスタイム」に取り組むなど積極的に健康教育を推進している。 ○新型コロナウイルス感染症対策の取組は素晴らしい。生徒の命を守る取組を引き続きお願いする。
	17	生徒は、体育授業や部活動に意欲的に取り組んでいる。	A		
	18	生徒は、健康を意識し、自己の健康管理を意識している。	A		
地域との連携	19	学校は、教育活動に関する様々な情報を積極的に提供し、説明責任を果たしている。	A	・コロナ禍で、保護者や地域が来校する機会が制限されたため例年以上にHP、学校だより、学年だより、学級通信を通じて、生徒の学校生活の様子を伝えてきた。本年度は地域との連携に課題が残った。	○コロナ禍初年ということで、難しい部分もあったと思う。 ○生徒のシチズンシップの要請に努められたい。
	20	学校は、保護者や地域と連携・協力し、教育活動を行っている。	B		

